

平成26年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力実態調査

調査結果報告書

平成26年12月

柳川市教育委員会

平成26年度全国学力・学習状況調査 福岡県学力実態調査
調査結果報告書
目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査の内容	
5 調査問題の内容	
II 調査結果の概要	2
全国学力・学習状況調査の結果	
1 柳川市の平均正答率の状況	
2 教科に関する調査の結果（全体の状況）	
3 小・中学校別の傾向（国語、算数・数学）	
福岡県学力実態調査の結果	
1 柳川市の平均正答率の状況	
2 教科に関する調査の結果（全体の状況）	
3 小・中学校別の傾向（社会、理科、英語）	
III 児童生徒質問紙に関する調査結果	8
IV 学校質問紙に関する調査結果	12
V 平均正答率との相関が見られる内容	19
VI まとめと今後の取組	25
1 調査結果の分析・検証	
2 学校における改善に向けた取組	
3 柳川市教育委員会における改善に向けた取組	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成26年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果につきましては以下のホームページにてご参照ください。

◇ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 URL：<http://www.nier.go.jp/>

◇ 福岡県学力実態調査の結果（H26.12.25に掲載）

福岡県教育委員会 義務教育課

「平成26年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力実態調査結果報告書」

URL：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>

平成26年度全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査
柳川市の調査結果報告書

I 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校（全 19 校）第 6 学年の全児童 609 名
- 中学校（全 6 校）第 3 学年の全生徒 567 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
・全国学力・学習状況調査	平成 26 年 4 月 22 日（火）	国語（小・中） 算数（小） 数学（中） 児童生徒質問紙・学校質問紙調査（小・中）
・福岡県学力実態調査	平成 26 年 6 月 24 日（火）	社会（小・中） 理科（小・中） 英語（中）

4 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
 - ① 国語、算数・数学・・・・・・・・・・・・・・・・・・全国学力・学習状況調査にて実施
 - ・ 主として「知識」に関する問題（A 問題）
 - ・ 主として「活用」に関する問題（B 問題）
 - ② 社会、理科、英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・福岡県学力実態調査にて実施
 - ・ 主として「知識」に関する問題
 - ・ 主として「活用」に関する問題
- (2) 質問紙調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・全国学力・学習状況調査にて実施
 - ・ 児童生徒に対する調査
 - ・ 学校に対する調査

5. 調査問題の内容

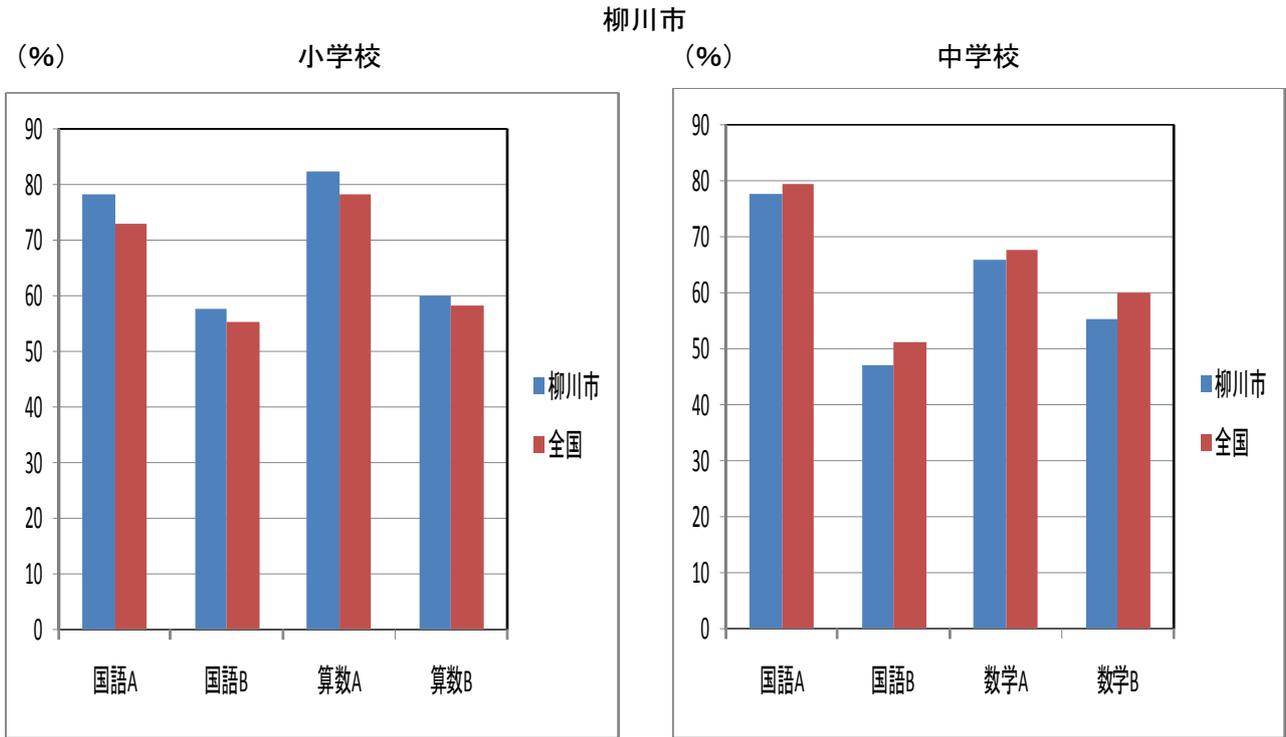
- (1) 主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A及び社会・理科・英語]
 - ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- (2) 主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B及び社会・理科・英語]
 - ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
 - ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

Ⅱ 調査結果の概要

全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査の結果

1 柳川市の平均正答率の状況



2 教科に関する調査の結果（全体の状況）

【全体の状況】

- 平均正答率は、小学校においては国語・算数のA問題・B問題ともにすべて全国平均正答率を上回っている。中学校においては国語・数学のA問題・B問題ともにすべて全国平均正答率をやや下回っている。

【小学校】

- 小学校の平均正答率について、国語A問題では、平成25年度と比べ、さらに伸びが見られる。国語B問題では、平成25年度は全国平均を下回ったものの今年度は上回った。
算数においては、A・B問題ともに、全国平均を上回っているものの平成25年度と比べ、B問題の正答率がやや低下している。

【中学校】

- 中学校の平均正答率について、国語A問題は、平成25年度と比べ、全国との差が縮小し、伸びが見られる。国語B問題は平均正答率との差がやや広がっている。
数学においては、A・B問題ともに、平成25年度と比べ、全国との差が縮小している。

【無解答率】

- 平均無解答率は、小学校でほぼ全国平均と同様の状況である。また、中学校においては、改善傾向にある。

3 小・中学校別の傾向（国語、算数・数学）

（１）小学校国語

A問題では、物語における表現の特徴とその効果、登場人物の相互関係等について捉えることに課題がある。

◇漢字の読みや書きについては、相当数の児童が理解できていると判断できる。

◇「仮定の表現を用いて適切な文に書き直すこと」については、相当数の児童ができています。

◆「故事成語の意味と使い方を理解すること」「物語を創作する際、情景描写の効果を捉えること」等に課題がある。

B問題では、立場や根拠を明確にして話し合うことについて課題がある。

◆「立場を明確にして、質問や意見を述べること」「二つの詩を比べて読み、詩の解釈における着眼点の違いを捉えたり、自分の考えを書いたりすること」等に課題がある。

（２）小学校算数

A問題では、図を観察して数量の関係を理解することに課題がある。

◇「計算の順序についてのきまりなどを理解すること」に、改善の状況が見られる。

◆「割合が1より小さい場合でも、比較量が(基準量)×(割合)で求められることを理解すること」「作図に用いられる図形の約束や性質を理解すること」等に課題がある。

B問題では、根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明することに課題がある。

◆「示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述すること」等に課題がある。

（３）中学校国語

A問題では、具体的な言語活動の中での語句等の定着や目的の達成をめざして話し合う力に課題がある。

◇「心情が相手に効果的に伝わるように描写を工夫して書き加えること」「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」は相当数の生徒ができています。

◆「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること」に課題がある。

◆「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」については、一部に課題がある。

B問題では、本や文章を読んで考えたことを、根拠を明確にして具体的に書くことに課題がある。

◆「資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと」「複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること」等に課題がある。

（４）中学校数学

A問題では、関数の意味を理解することや、グラフと表を関連付けて、2つの数量関係を理解することに課題がある。

◆「図形の回転移動の前後における角の対応を読み取ること」「関数の意味を理解すること」「度数分布表から相対度数を求めること」等に課題がある。

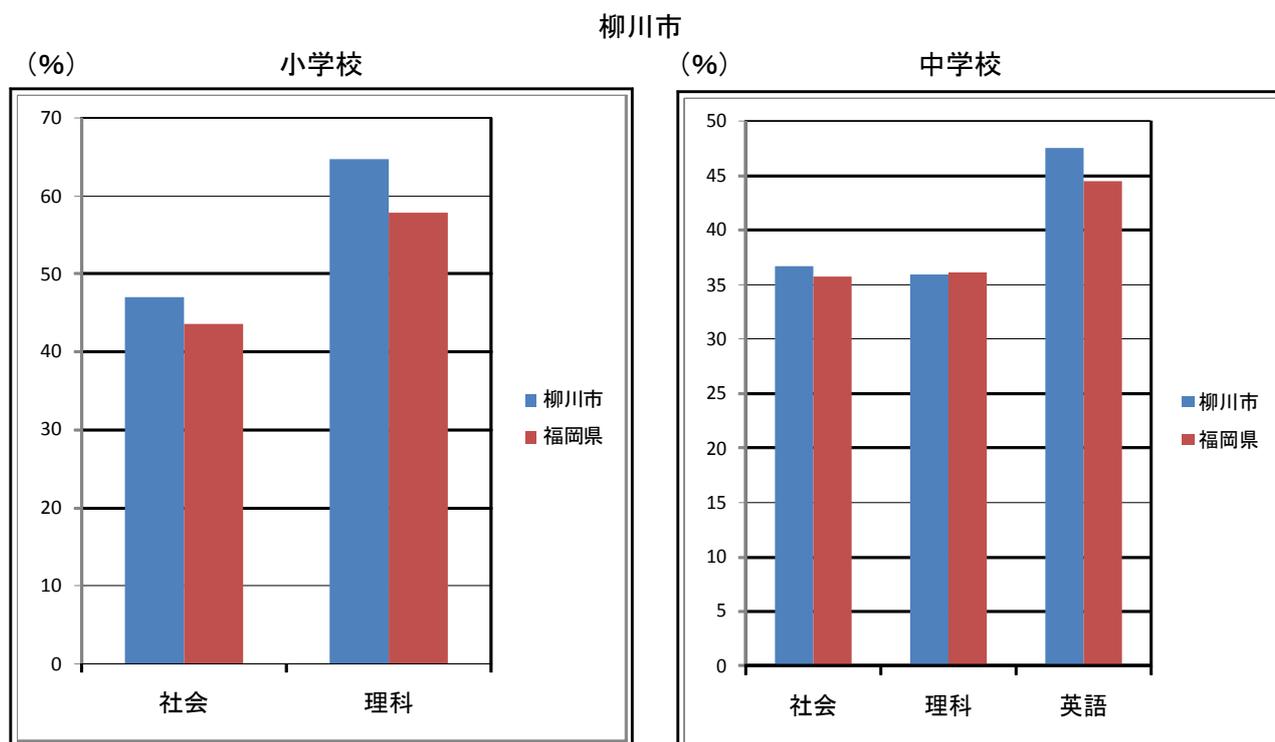
B問題では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

◆「証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を基に、発展的に考えること」「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」「グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明すること」等に課題がある。

福岡県学力実態調査の結果

福岡県学力実態調査の結果

1 柳川市の平均正答率の状況（社会・理科・英語）



2 教科に関する調査の結果（全体の状況）

- 小学校においては、社会・理科ともに県平均正答率を上回っている。
- 中学校においては、社会が県平均正答率を上回っている。理科は県平均正答率とほぼ同等である。また、英語においては、県平均正答率を大きく上回っている。

3 小・中学校別の傾向（社会・理科・英語）

（1）小学校社会

- ◇ 領域別の正答率から見ると、「日本の食料生産」の理解が県平均正答率をやや下回っているものの、他の領域問題はすべて県平均正答率を上回っている。
- ◇ 観点別の正答率を見ると、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のすべてにおいて、県平均正答率を上回っている。
- ◆ 解答形式別の正答率を見ると、選択式と短答式は県を上回っているものの、記述式に課題がある。

(2) 小学校理科

- ◇ 領域別の正答率から見ると、すべての領域において県平均正答率を大きく上回っている。
- ◇ 観点別の正答率を見ると、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のすべての観点において県平均正答率を大きく上回っている。
- ◇ 解答形式別の正答率を見ると、選択式、短答式、記述式のすべての問題で県平均正答率を大きく上回っている。

(3) 中学校社会

- ◇ 領域別の正答率から見ると、概ね県平均正答率を上回っているが、地理・歴史についてやや県平均正答率を下回っている。
 - ・「世界の諸地域」「世界と比べた日本の特色」「古代の歴史」「近代の歴史」にやや課題がある。
- ◇ 観点別の正答率を見ると、「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」のすべての観点において県平均正答率を上回っている。
- ◆ 解答形式別の正答率を見ると、選択式と短答式は県を上回っているものの、記述式に課題がある。

(4) 中学校理科

- ◇ 領域別の正答率から見ると、第1分野「音の性質」「化学変化と物質の質量」、第2分野「天気の変化」が県平均正答率をやや下回っている。他の領域の問題は県を上回っている。
- ◇ 観点別の正答率を見ると、「思考・判断・表現」「知識・理解」の観点において県平均正答率をやや下回っている。「技能」については県平均をやや上回っている。
- ◆ 解答形式別の正答率を見ると、選択式、記述式に課題がある。

(5) 中学校英語

- ◇ 領域別の正答率から見ると、すべての領域において県平均正答率を上回っている。
 - ・「リスニング」「文法」「内容理解」「英作文」の全領域で英語力の向上が見られる。
- ◇ 観点別の正答率を見ると、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「知識・理解」のすべての観点で正答率を上回っている。
- ◇ 解答形式別の正答率を見ると、選択式、短答式、記述式のすべての問題で県平均正答率を大きく上回っている。

Ⅲ 児童生徒質問紙に関する調査結果

児童質問紙調査の結果から全国及び福岡県と柳川市の児童・生徒の特徴的な傾向について取り上げてみた。ここでは国・県と数値上の差が大きい項目を特徴的な傾向として抽出し考察を行った。(質問数：小学校・中学校ともに74問)

【小学校児童】

質問(13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間を除く)

所持率： 本市 44.8% 福岡県 56.6% 全国 53.7%

本市児童の携帯電話やスマートフォンの所持率は全国・県より約10%程度少なく、使用する時間も全国・県と比較すると少ない傾向にある。

このことは、基本的な生活習慣の乱れの防止や、学力向上にもつながっていると考えられる。

質問(16) 学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか。

学習塾に通っていない児童： 本市 62.7% 福岡県 57.0% 全国 52.1%

本市では学習塾に通っている児童が県・全国に比べるとやや少ない状況にある。6割以上の児童は、自宅において学校の勉強の復習や宿題、自主学習、読書等を日常的に継続して取り組んでいる。

質問(17) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

1日当たりの読書時間が2時間以上、1時間以上2時間未満を合わせると、
本市：11.3% 福岡県 18.0% 全国 18.0%

1日当たりの読書時間が10分以上30分未満の児童の割合は
本市：33.2% 福岡県 25.6% 全国 26.5%

このことは、量的な読書活動ばかりでなく、質的な読書活動の実態も考慮しながら今後の読書活動の推進に向けて、学力向上に連動する改善策を要する。

質問(18) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域図書館にどれくらい行きますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

週4回以上行く児童： 本市 14.3% 福岡県 4.2% 全国 3.5%

週1～3回程度行く児童： 本市 24.5% 福岡県 15.1% 全国 15.2%

本市児童の学校図書館等の活用頻度は福岡県や全国に比べると格段に高い。図書館利用が読書活動の充実につながっていると考えられる。

このことは、学校及び地域図書館の蔵書数の充実、学習環境としての便利性、快適性等をさらに高めることで、学校及び地域のコミュニティーセンター的役割と地域の教育力の向上が期待される。

質問（28） 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。

先生は、あなたのよさを認めてくれる： 本市 28.9% 福岡県 33.8% 全国 35.9%

この質問は学校教育における最も大切な要素であり教師の資質に関わるものである。児童と教師の信頼関係、児童の自尊感情、学習意欲、思いやりの心の育成など、児童理解を基盤に教育は為されなければならない。今回の調査結果を真摯に受け止め、教師力の向上を図る必要がある。

質問（29） 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

「当てはまる」	本市 47.1%	福岡県 33.9%	全国 37.7%
「どちらかと言えば当てはまる」	本市 32.8%	福岡県 28.1%	全国 30.3%
合計	本市 79.9%	福岡県 62.0%	全国 68.0%

本市児童の約半数が地域行事に積極的に参加している状況が見て取れる。郷土の伝統文化や風習等が幼い頃から育まれる土壌が現在も息づいていることがうかがえる。

質問（31） 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えていますか。

「当てはまる」	本市 7.2%	福岡県 12.5%	全国 13.6%
「どちらかと言えば当てはまる」	本市 25.8%	福岡県 27.7%	全国 28.9%
合計	本市 33.0%	福岡県 40.2%	全国 42.5%

公共精神の育ち、地域社会への興味関心にやや欠ける傾向がうかがえる。このことは、児童期より社会体験、勤労奉仕体験等を教育活動に取り入れたり、地域において積極的な社会参加の機会を設けたりするなど創意工夫ある取り組みの必要性を示している。

質問（33） テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。（携帯電話やスマートフォンを使って、インターネットのニュースを見る場合も含む）

「よく見る」： 本市 43.2% 福岡県 49.5% 全国 53.8%

「ニュースをよく見る」が全国に比べ10%以上も少なく、社会の出来事への関心が低い傾向にある。身の回りで起きている出来事を自分なりに情報を収集・選択・判断することを通して、社会への関心を高めていくことが望まれる。

【中学校生徒】

質問（3） 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

「はい」と答えた生徒： 本市 50.2% 福岡県 58.3% 全国 55.8%

福岡県、全国と比べると本市の生徒は起床時刻にやや一定ではないことがわかる。ただ、睡眠時間等に関する質問がないため、生活習慣の詳細は不明である。質問（2）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」も同様の傾向にある。

質問（7） 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。

「当てはまる」	本市 12.2%	福岡県 16.2%	全国 15.7%
「どちらかと言えば当てはまる」	本市 27.0%	福岡県 33.2%	全国 32.9%
合計	本市 39.2%	福岡県 49.4%	全国 48.6%

生徒の発達特性上、児童期と違って自分の意見を積極的に発表したり、生徒間で意見交流したりする場面が少なくなる傾向はあるものの、福岡県・全国と比べてもやや低い状況にある。

思考力や表現力の育成のためにも教材や学習過程の工夫等の授業改善が必要である。

質問（14） 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

1日当たりの勉強時間（学校外）	3時間以上	本市 6.4%	福岡県 12.6%	全国 10.4%
	2時間以上3時間未満	本市 19.5%	福岡県 22.5%	全国 24.7%
合計		本市 25.9%	福岡県 35.1%	全国 35.1%

高校入試をひかえた第3学年生徒の勉強時間を勘案すると、家庭での学習時間（学習塾を含む）は学力向上の大きな要因である。本市3年生は福岡県・全国と比べると約10%程度下回っている。また、勉強時間が30分以上1時間未満の割合は約24%と最も多い実態にある。

質問（15） 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

1日当たりの勉強時間（学校外）	4時間以上	本市 3.0%	福岡県 5.2%	全国 5.2%
	3時間以上4時間未満	本市 7.8%	福岡県 11.2%	全国 11.7%
合計		本市 10.8%	福岡県 16.4%	全国 16.9%

休日の勉強時間は福岡県・全国と比べるとやや少ない傾向にある。ただし、「全く勉強しない」生徒の割合は、福岡県・全国と比べると少ない。

「休日に勉強を全くしない」生徒の割合 本市 6.4% 福岡県 13.6% 全国 11.3%

質問（19） 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

家族との会話：「している」	本市 33.5%	福岡県 41.8%	全国 41.9%
「どちらかといえばしている」	本市 35.1%	福岡県 30.2%	全国 30.7%
	本市 68.6%	福岡県 72.0%	全国 72.6%

家の人に学校での出来事を話す割合は、福岡県・全国に比べるとやや少ないが僅差である。ただ、「している」だけの割合は約8%下回っている。極端な差は認められない。

質問（20） 家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか。

保護者の行事参加：「よく来る」	本市 61.0%	福岡県 52.5%	全国 49.9%
「時々来る」	本市 26.8%	福岡県 34.1%	全国 33.2%
	本市 87.8%	福岡県 86.6%	全国 83.1%

本市の保護者は「よく来る」が福岡県・全国より約10%ほど多く、学校行事や我が子への関心が高い。郷土への思いや愛着意識が高く、生徒達同様に学校行事を楽しみにしていることから、保護者の行事参加率も高い。親子代々の出身校、その地域に根付いた学校という思いが強く、学校経営が好循環の場合の信頼と協力は大きいものと思われる。

質問（44） 1, 2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

授業の展開（本時目標の明確化・めあて、ねらい）			
「当てはまる」	本市 65.8%	福岡県 55.6%	全国 32.9%
「どちらかといえば当てはまる」	本市 28.4%	福岡県 31.5%	全国 38.6%
	本市 94.2%	福岡県 87.1%	全国 71.5%

小・中学校ともに学習の流れについては、基本的な学習過程として教師の指導法は定着している。このことにより、小学校と中学校の連携がなされ、児童生徒は戸惑いなく授業を受けることができている。本市の学習過程の定着度は県、特に全国を大きく上回っている。

質問（45） 1, 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

授業の展開（本時学習のまとめ、振り返り）			
「当てはまる」	本市 27.1%	福岡県 18.0%	全国 15.6%
「どちらかといえば当てはまる」	本市 41.1%	福岡県 41.3%	全国 37.7%
	本市 68.2%	福岡県 59.3%	全国 53.3%

質問（44）と同様に本市の授業展開は福岡県・全国と比べると大きく上回っている。

このような授業の流れを硬直化・マンネリ化しないよう教材研究や指導の手立てを工夫するよう、今後の授業改善に努めることが肝要である。

IV 学校質問紙に関する調査結果

学校質問紙調査の結果から全国及び福岡県と柳川市の学校経営の特徴的な傾向について取り上げてみた。ここでは国・県と数値上の差が大きい項目を特徴的な傾向として抽出した。
(質問数：小学校101問・中学校99問)

【小学校】

質問(7) 平成25年度の第5学年の国語の総授業時数

「標準時数ちょうど」	本市 5.3%	福岡県 12.2%	全国 19.2%
「標準時数+1時間以上35時間以下」	本市 94.7%	福岡県 83.7%	全国 74.3%

質問(8) 平成25年度の第5学年の算数の総授業時数

「標準時数ちょうど」	本市 0%	福岡県 11.6%	全国 21.8%
「標準時数+1時間以上35時間以下」	本市 94.7%	福岡県 84.3%	全国 73.3%

質問(23) 調査対象学年の児童に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。

「基本的に毎日」	本市 36.8%	福岡県 21.2%	全国 18.9%
「週に複数回」	本市 36.8%	福岡県 29.9%	全国 42.2%

質問(25) 調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。

「週4回以上」	本市 0.0%	福岡県 1.9%	全国 2.7%
「週2～3回」	本市 73.7%	福岡県 10.2%	全国 14.8%
「週1回」	本市 21.1%	福岡県 10.7%	全国 13.1%
「行っていない」	本市 5.3%	福岡県 55.4%	全国 37.5%

質問(27) 調査対象学年の児童に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。(実施した日数の累計)

「延べ13日以上」	本市 5.3%	福岡県 0.9%	全国 1.6%
「延べ9～12日」	本市 0.0%	福岡県 1.2%	全国 4.1%
「延べ5～8日」	本市 57.9%	福岡県 20.9%	全国 22.9%
「行っていない」	本市 5.3%	福岡県 32.3%	全国 33.8%

質問(46) 調査対象学年の児童に対して、前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用した授業を行いましたか。

「週 1 回以上」	本市 10.5%	福岡県 9.6%	全国 17.3%
「月 1 回以上」	本市 10.5%	福岡県 18.7%	全国 23.5%
「学期 1 回以上」	本市 26.3%	福岡県 43.6%	全国 34.7%
「ほとんど行っていない」	本市 52.6%	福岡県 27.7%	全国 24.3%

質問（４９） 平成２５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）

「よく行った」	本市 10.5%	福岡県 22.2%	全国 21.4%
「行った」	本市 73.7%	福岡県 65.1%	全国 59.7%
「ほとんど行っていない」	本市 15.8%	福岡県 12.6%	全国 18.6%

質問（５２） 調査対象学年の児童に対して、国語の授業において、前年度に、習熟度別に少人数による指導を行いましたか。

「年間授業の 1/4 以上」	本市 5.3%	福岡県 4.1%	全国 2.2%
「年間授業の 1/4 未満」	本市 31.6%	福岡県 21.7%	全国 7.7%
「行っていない」	本市 63.2%	福岡県 70.5%	全国 86.8%

質問（５３） 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習熟できるようにしましたか。

「年間授業の 3/4 以上」	本市 21.1%	福岡県 11.9%	全国 19.6%
「年間授業の 1/2 未満」	本市 5.3%	福岡県 12.3%	全国 9.4%
「年間授業の 1/4 以上」	本市 15.8%	福岡県 20.9%	全国 10.9%
「行っていない」	本市 15.8%	福岡県 19.4%	全国 44.2%

質問（５６） 調査対象学年の児童に対して、算数の授業において、第４学年のときに習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。

「年間授業の 3/4 以上」	本市 0.0%	福岡県 2.8%	全国 11.1%
「年間授業の 1/2 未満」	本市 0.0%	福岡県 5.8%	全国 7.0%
「年間授業の 1/4 以上」	本市 10.5%	福岡県 16.9%	全国 9.6%
「行っていない」	本市 57.9%	福岡県 39.5%	全国 56.4%

質問（６７） 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度に、発展的な学習の指導を行いましたか。

「よく行った」	本市 5.3%	福岡県 7.5%	全国 11.1%
「どちらかといえば行った」	本市 31.6%	福岡県 43.2%	全国 47.2%
「あまり行っていない」	本市 63.2%	福岡県 44.6%	全国 38.6%

質問（72） 教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 17.8%	全国 18.4%
「どちらかといえば行った」	本市 21.1%	福岡県 51.8%	全国 44.0%
「あまり行っていない」	本市 78.9%	福岡県 26.1%	全国 31.2%

質問（73） 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。

「よく行った」	本市 10.5%	福岡県 22.8%	全国 25.5%
「どちらかといえば行った」	本市 52.6%	福岡県 53.8%	全国 50.8%
「あまり行っていない」	本市 31.6%	福岡県 19.9%	全国 20.1%

質問（74） 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか。

「よく行った」	本市 5.3%	福岡県 11.0%	全国 12.2%
「どちらかといえば行った」	本市 0.0%	福岡県 29.9%	全国 28.9%
「あまり行っていない」	本市 47.4%	福岡県 30.4%	全国 30.4%
「行っていない」	本市 47.4%	福岡県 28.5%	全国 28.3%

質問（91） 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか。

「年間15回以上」	本市 52.6%	福岡県 40.6%	全国 24.0%
「年間13～14回」	本市 5.3%	福岡県 8.6%	全国 6.1%
「年間11～12回」	本市 5.3%	福岡県 9.0%	全国 8.2%
「年間9～10回」	本市 10.5%	福岡県 9.8%	全国 11.7%
「年間7～8回」	本市 21.1%	福岡県 17.0%	全国 19.0%

質問（96） 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。

「よく行った」	本市 15.8%	福岡県 25.7%	全国 35.9%
「どちらかといえば行った」	本市 63.2%	福岡県 58.5%	全国 52.3%
「あまり行っていない」	本市 21.1%	福岡県 15.8%	全国 11.6%

【中学校】

質問（7） 平成25年度の第2学年の国語の総授業時数

「標準時数より少ない」	本市 33.3%	福岡県 4.6%	全国 7.2%
「標準時数ちょうど」	本市 0.0%	福岡県 33.0%	全国 35.8%
「標準時数+1時間以上35時間以下」	本市 66.7%	福岡県 57.3%	全国 49.0%

質問（8） 平成25年度の第2学年の数学の総授業時数

「標準時数より少ない」	本市 33.3%	福岡県 3.4%	全国 3.3%
「標準時数ちょうど」	本市 16.7%	福岡県 21.9%	全国 27.8%
「標準時数+1時間以上35時間以下」	本市 50.0%	福岡県 69.2%	全国 59.3%

質問（23） 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。

「基本的に毎日」	本市 50.0%	福岡県 49.3%	全国 64.6%
「週に複数回」	本市 0.0%	福岡県 6.0%	全国 15.2%
「行っていない」	本市 33.3%	福岡県 13.7%	全国 7.1%

質問（27） 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。（実施した日数の累計）

「延べ13日以上」	本市 50.0%	福岡県 5.4%	全国 9.7%
「延べ9～12日」	本市 0.0%	福岡県 10.0%	全国 13.4%
「延べ5～8日」	本市 33.3%	福岡県 35.6%	全国 37.3%
「1日から延べ4日」	本市 16.7%	福岡県 41.3%	全国 23.9%

質問（38） 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。

「よく行った」	本市 66.7%	福岡県 17.9%	全国 31.8%
「どちらかといえば行った」	本市 33.3%	福岡県 57.8%	全国 56.4%
「あまり行っていない」	本市 0.0%	福岡県 23.4%	全国 11.5%

質問（40） 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表が出来るように指導しましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 8.0%	全国 16.3%
「どちらかといえば行った」	本市 83.3%	福岡県 56.1%	全国 61.8%
「あまり行っていない」	本市 16.7%	福岡県 35.6%	全国 21.5%

質問（４５） 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか。

「週１回以上」	本市 0.0%	福岡県 1.1%	全国 3.2%
「月１回以上」	本市 0.0%	福岡県 5.4%	全国 9.0%
「学期１回以上」	本市 0.0%	福岡県 27.1%	全国 34.0%
「ほとんど行っていない」	本市 100%	福岡県 65.2%	全国 53.5%

質問（４６） 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか。

「週１回以上」	本市 0.0%	福岡県 3.4%	全国 8.4%
「月１回以上」	本市 0.0%	福岡県 8.0%	全国 13.0%
「学期１回以上」	本市 16.7%	福岡県 28.5%	全国 32.0%
「ほとんど行っていない」	本市 83.3%	福岡県 58.7%	全国 46.3%

質問（４９） 平成２５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 24.8%	全国 19.7%
「行った」	本市 83.3%	福岡県 55.0%	全国 55.9%
「ほとんど行っていない」	本市 16.7%	福岡県 19.9%	全国 24.3%

質問（５３） 調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。

「年間授業の 3/4 以上」	本市 16.7%	福岡県 9.4%	全国 17.2%
「年間授業の 1/2 未満」	本市 16.7%	福岡県 6.8%	全国 5.5%
「年間授業の 1/4 以上」	本市 0.0%	福岡県 12.3%	全国 7.2%
「行っていない」	本市 66.7%	福岡県 43.6%	全国 59.1%

質問（５４） 調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。

「年間授業の 3/4 以上」	本市 16.7%	福岡県 7.7%	全国 13.4%
「年間授業の 1/2 未満」	本市 16.7%	福岡県 6.0%	全国 4.8%
「年間授業の 1/4 以上」	本市 0.0%	福岡県 9.4%	全国 6.5%
「行っていない」	本市 66.7%	福岡県 54.7%	全国 65.2%

質問（59） 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度に、補足的な学習の指導を行いましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 9.1%	全国 14.7%
「どちらかといえば行った」	本市 66.7%	福岡県 62.1%	全国 60.2%
「あまり行っていない」	本市 33.3%	福岡県 25.4%	全国 22.4%

質問（60） 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度に、発展的な学習の指導を行いましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 4.3%	全国 7.1%
「どちらかといえば行った」	本市 33.3%	福岡県 40.7%	全国 48.9%
「あまり行っていない」	本市 66.7%	福岡県 49.3%	全国 40.3%

質問（61） 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 12.0%	全国 18.9%
「どちらかといえば行った」	本市 66.7%	福岡県 61.3%	全国 62.6%
「あまり行っていない」	本市 33.3%	福岡県 25.1%	全国 17.9%

質問（62） 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を身に付ける授業を行いましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 28.8%	全国 35.2%
「どちらかといえば行った」	本市 83.3%	福岡県 64.4%	全国 58.4%
「あまり行っていない」	本市 16.7%	福岡県 6.0%	全国 6.1%

質問（66） 調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 7.7%	全国 10.8%
「どちらかといえば行った」	本市 83.3%	福岡県 45.3%	全国 50.5%
「あまり行っていない」	本市 16.7%	福岡県 43.0%	全国 35.5%

質問（70） 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか。

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 33.3%	全国 28.7%
「どちらかといえば行った」	本市 100.0%	福岡県 47.3%	全国 43.4%
「あまり行っていない」	本市 0.0%	福岡県 16.0%	全国 23.3%

質問（78） 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。

「よく行った」	本市 83.3%	福岡県 50.1%	全国 48.5%
「どちらかといえば行った」	本市 16.7%	福岡県 40.7%	全国 42.4%
「あまり行っていない」	本市 0.0%	福岡県 8.3%	全国 8.7%

質問（82） 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。(国語/数学共通)

「よく行った」	本市 66.7%	福岡県 32.5%	全国 30.4%
「どちらかといえば行った」	本市 33.3%	福岡県 53.8%	全国 55.0%
「あまり行っていない」	本市 0.0%	福岡県 13.1%	全国 13.4%

質問（84） 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取り組みとして、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。国語/数学共通)

「よく行った」	本市 0.0%	福岡県 11.7%	全国 12.8%
「どちらかといえば行った」	本市 16.7%	福岡県 45.6%	全国 51.4%
「あまり行っていない」	本市 83.3%	福岡県 41.6%	全国 34.4%

質問（86） 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。

「よくしている」	本市 83.3%	福岡県 42.7%	全国 39.2%
「どちらかといえばしている」	本市 16.7%	福岡県 49.6%	全国 45.6%
「あまりしていない」	本市 0.0%	福岡県 7.1%	全国 13.2%

質問（97） 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか。

「よくしている」	本市 33.3%	福岡県 43.3%	全国 48.3%
「どちらかといえばしている」	本市 66.7%	福岡県 53.6%	全国 48.9%
「あまりしていない」	本市 0.0%	福岡県 2.6%	全国 2.7%

V 平均正答率との相関が見られる内容

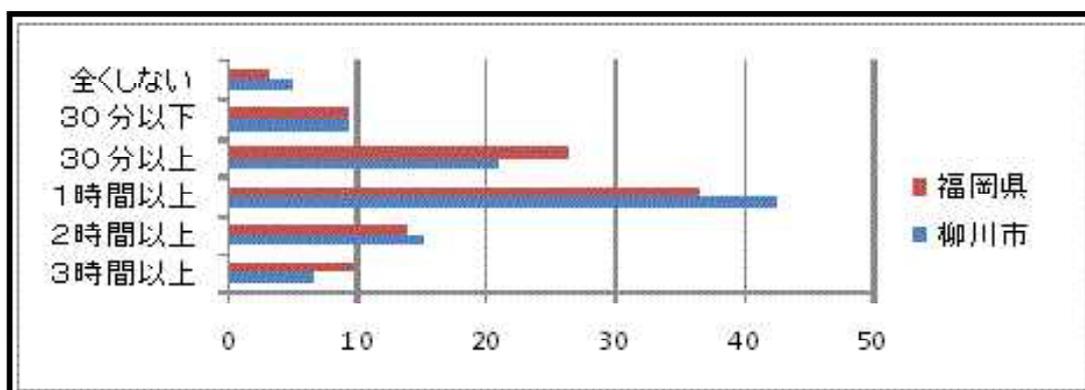
県の分析において、教科の正答率と調査項目との相関が見られた項目の主なものについて、県と本市とを比較して結果を示す。

(1) 小学校

市内の児童の状況 (児童質問紙より)

【平日の勉強時間】 (%)

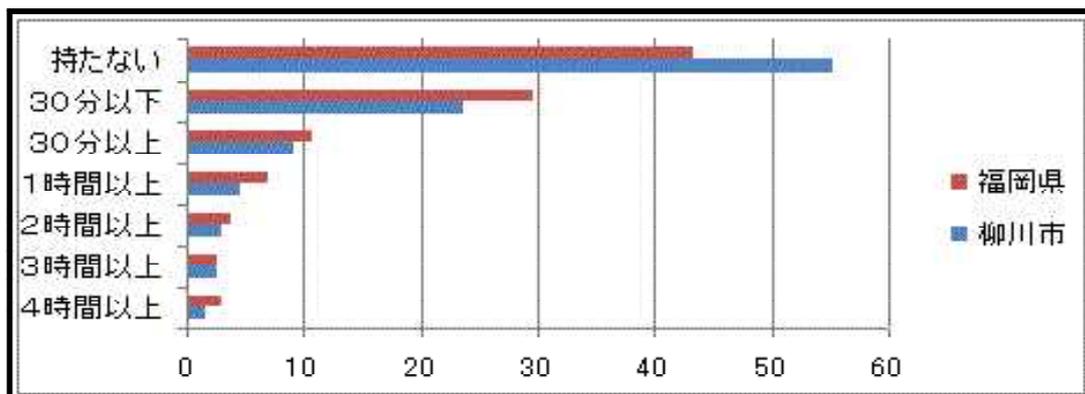
	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分以下	全くしない
柳川市	6.7	15.1	42.7	20.9	9.5	5.1
福岡県	10.0	14.0	36.6	26.6	9.5	3.4



* 平日の勉強時間については、3時間以上の割合が県よりやや低く、2時間以上の割合はほぼ等しい。1時間以上の割合は本市がやや高い傾向にある。

【平日の携帯電話の通話やメールの使用時間】 (%)

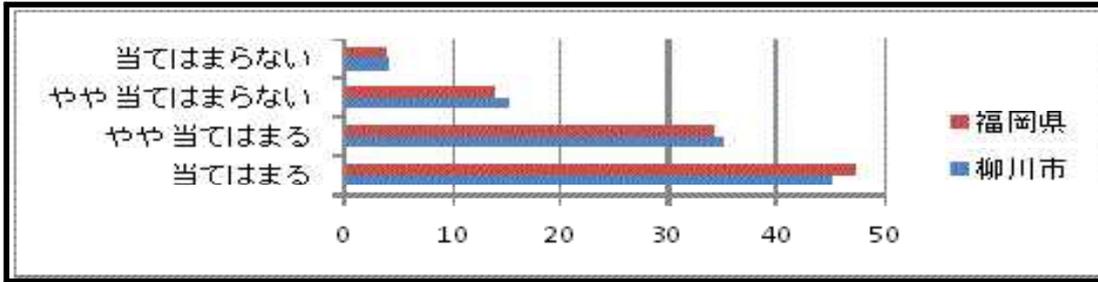
	4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分以下	持たない
柳川市	1.5	2.6	3.0	4.6	9.2	23.6	55.2
福岡県	3.0	2.6	3.8	6.9	10.7	29.6	43.4



* 本市の児童の使用時間は県と比較すると全ての領域で少ない。携帯電話を所持しない児童が県より10ポイント以上多い。

【発表の機会が与えられている】 (％)

	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
柳川市	45.3	35.1	15.3	4.1
福岡県	47.5	34.3	14.0	4.0

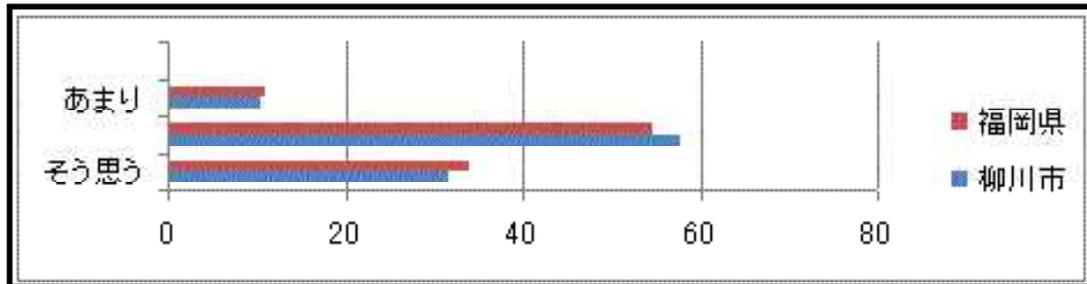


* 発表する機会については、「当てはまる」の割合は県平均よりやや下回っている。

市内の小学校の状況 (学校質問紙より)

【私語がなく落ち着いている】 (％)

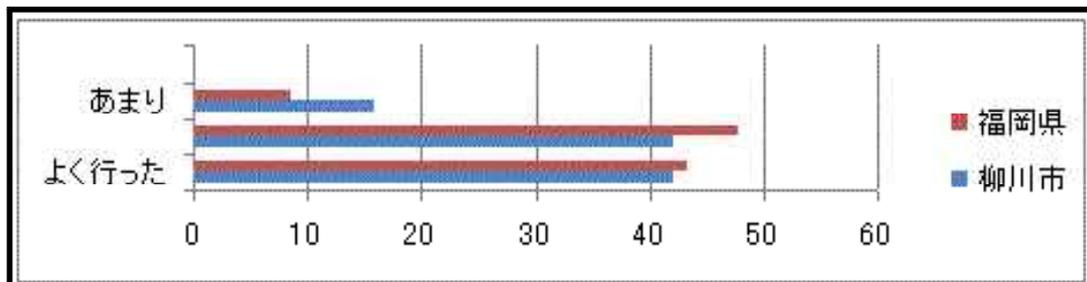
	そう思う	どちらかといえば	あまり	思わない
柳川市	31.6	57.9	10.5	0
福岡県	34.0	54.6	11.1	0.3



* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、県が88.6％、市が89.5％であり、全体的にはほぼ同様と思われる。

【家庭学習に関する職員の共通理解の確認】 (％)

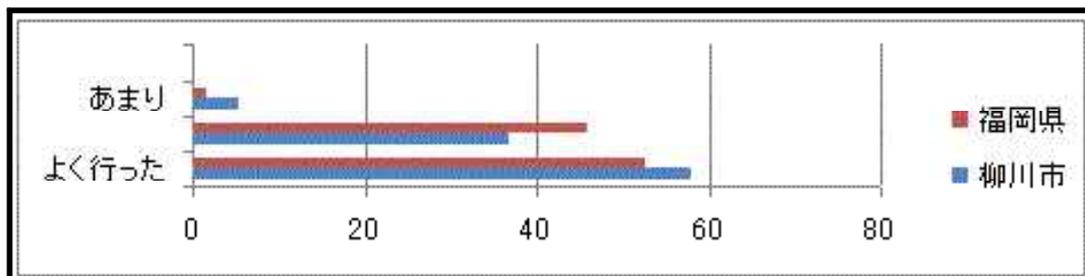
	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	42.1	42.1	15.8	0
福岡県	43.4	47.7	8.6	0.1



* 「よく行った」「どちらかといえば行った」は、ともに県平均より低い。

【学力の課題について職員で検討】 (％)

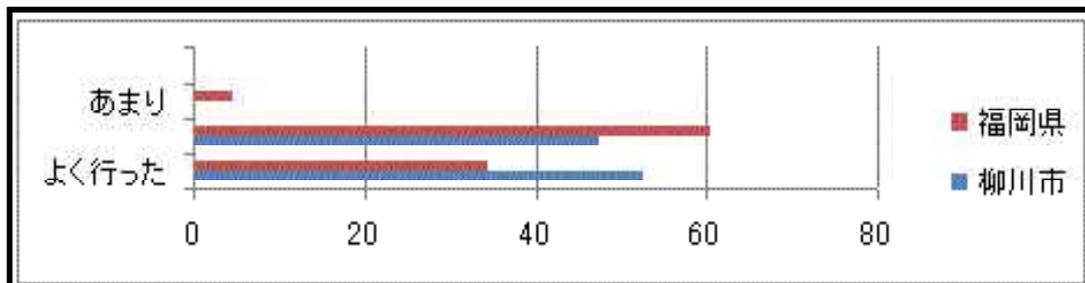
	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	57.9	36.8	5.3	0
福岡県	52.6	45.8	1.5	0.1



* 「よく行った」の割合は県平均より高いが、全体的にはほぼ同様の傾向である。

【発言や活動の時間を確保して授業を行う】 (％)

	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	52.6	47.4	0	0
福岡県	34.5	60.4	4.7	0.1



* 「よく行った」の割合は県平均を18%程度上回っている。

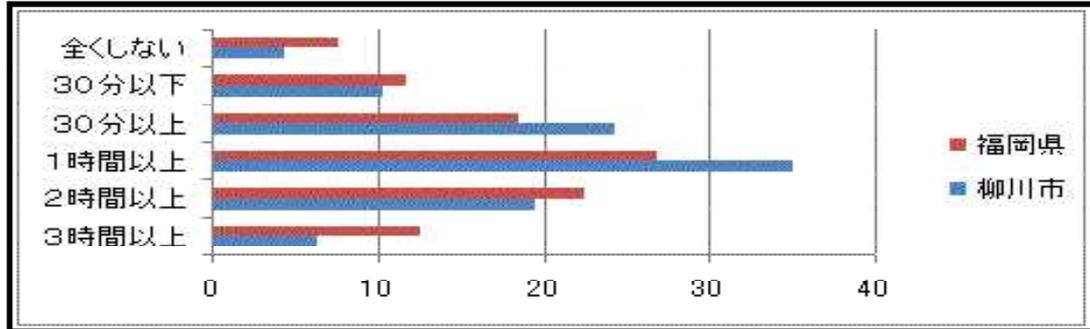
(2) 中学校

市内の生徒の状況 (生徒質問紙より)

【平日の勉強時間】

(%)

	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分以下	全くしない
柳川市	6.4	19.5	35.1	24.3	10.3	4.4
福岡県	12.6	22.5	26.8	18.5	11.8	7.7

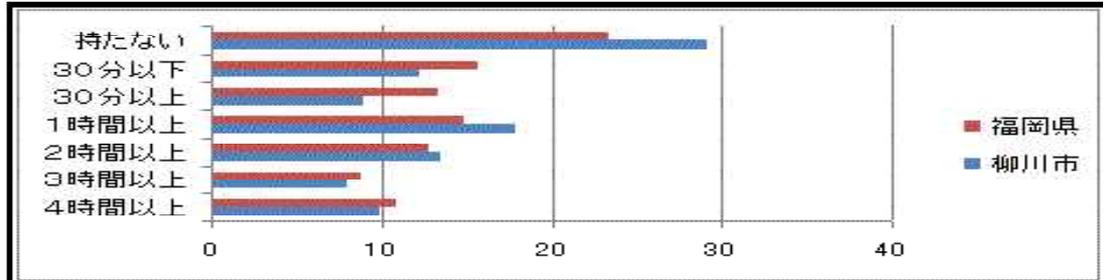


* 平日の勉強時間については、「3時間以上」「2時間以上」の割合が県平均より低く、1時間以下の割合は県平均より高い。

【平日の携帯電話の通話やメールの使用時間】

(%)

	4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分以下	持たない
柳川市	9.9	8.0	13.5	17.9	9.0	12.2	29.1
福岡県	10.9	8.8	12.8	14.9	13.3	15.7	23.3

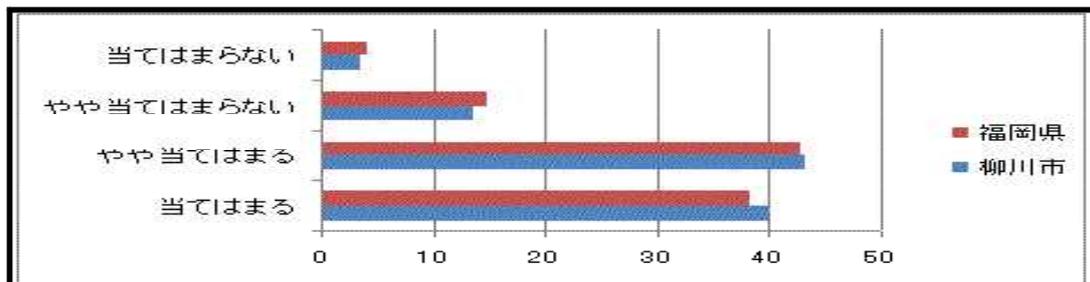


* 本市の生徒は「3時間以上使用」は県平均より低く、「1時間以上使用」、「2時間以上使用」の割合は本市が県平均より高い。

【発表の機会が与えられている】

(%)

	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
柳川市	39.9	43.3	13.5	3.4
福岡県	38.2	42.7	14.8	4.1

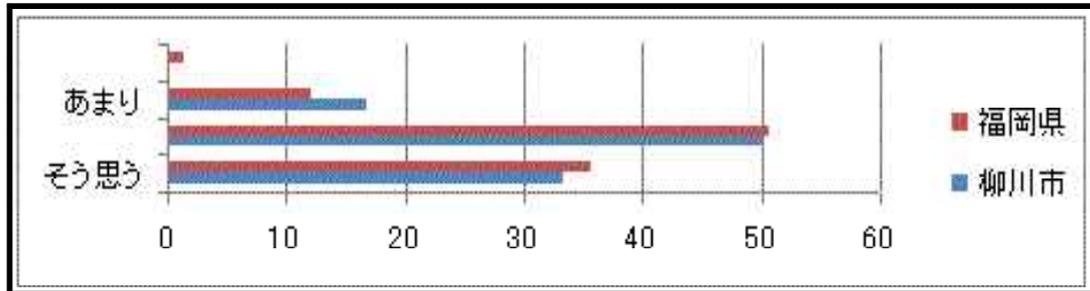


* 発表する機会については、「当てはまる」の割合は県平均より高い。

市内の中学校の状況 (学校質問紙より)

【私語がなく落ち着いている】 (%)

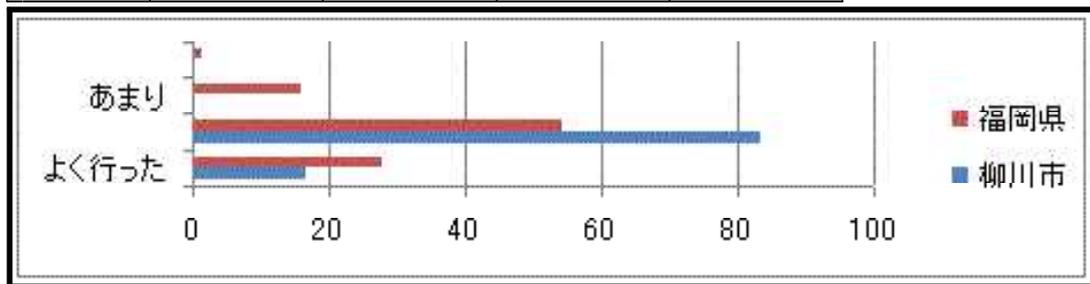
	そう思う	どちらかといえば	あまり	思わない
柳川市	33.3	50.0	16.7	0
福岡県	35.6	50.7	12.0	1.4



* 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」がともに県平均とほぼ同等である。

【家庭学習に関する職員の共通理解の確認】 (%)

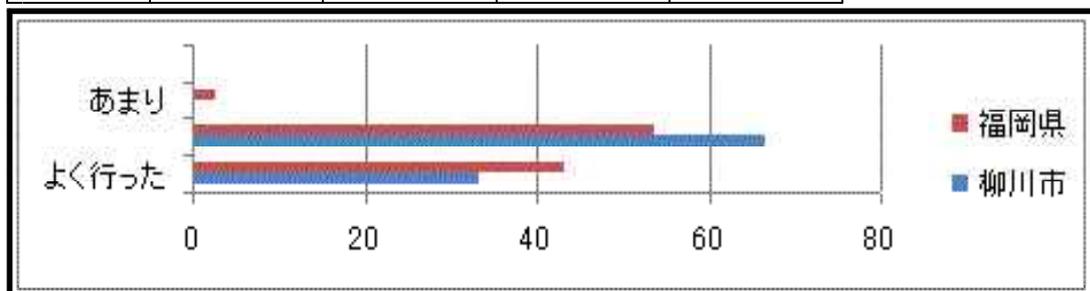
	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	16.7	83.3	0	0
福岡県	27.9	54.4	16	1.4



* 「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計が100%となり県平均を大きく上回っている。

【学力の課題について職員で検討】 (%)

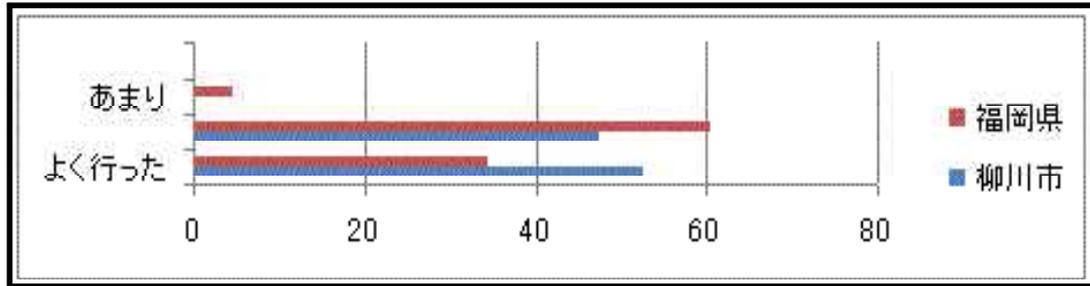
	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	33.3	66.7	0	0
福岡県	43.3	53.6	2.6	0



* 「よく行った」の割合は県平均より低い、「どちらかといえばよく行った」を合わせると100%に達している。

【発言や活動の時間を確保して授業を行う】 (％)

	よく行った	どちらかといえば	あまり	全く行っていない
柳川市	16.7	83.3	0	0
福岡県	19.9	67.2	12.3	0



* 「よく行った」「どちらかといえばよく行った」の合計が100%であり、県平均を上回っている。

Ⅳ まとめと今後の取組

1 調査結果の分析・検証について

(1) 教科に関する調査結果の分析・検証

児童生徒の学力の状況や課題等を的確に把握・検証するため、

- ① 教科ごとの平均正答数、平均正答率、中央値等の数値データによる分析だけでなく
- ② 児童生徒の正答数の分布の形状等から全体的な状況を把握・検証し
- ③ 設問別の結果から学習指導要領の領域や評価の観点、問題形式ごとの正答や無解答の状況を分析したり
- ④ 解答類型別の結果から個々の設問における誤答や無解答の状況を分析したり
- ⑤ これまで調査結果の状況や福岡県・柳川市における独自調査の結果等と比較分析したりするなど

それぞれの状況に即し、多面的な分析を行い、指導上の課題等を明らかにすること。

(2) 質問紙調査結果の分析・検証

児童生徒の学習意欲・学習環境・生活習慣等、学校の指導方法に関する取組や教育条件の整備状況等の具体的な状況を把握・検証するとともに、これらの状況と学力の相関関係について分析を行ったり、学力や学習状況等の調査結果を組み合わせることで全体的な特徴を把握・分析したりすることなどにより、成果や取り組むべき課題等を明らかにすること。

2 学校における改善に向けた取組の推進

(1) 各学校においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、指導計画等に適切に反映させるなど、教育指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと。その際には、調査対象の学年や教科だけではなく、全学年、全教科を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討すること。

(2) 各学校においては、教育指導等の改善に向け、具体的には次の事項を参考に取り組む。

- 調査結果の分析・検証の結果から見られる課題等を踏まえて授業の改善を行ったり、習熟の程度に応じた学習及び興味・関心等に応じた課題選択の学習などの少人数集団による指導、発展的な学習、補充的な学習などの個に応じた指導を適切に実施したり、家庭学習の課題を適切に与えるなどの具体的な指導内容や指導方法等の改善に向けた取組を行うこと。
- 課題が見られた児童生徒に対しては、学習状況の改善や学習意欲の向上につなげていくという観点を十分考慮しながら、それぞれの課題に応じて、補充学習等の教育指導を適切に行うことにより、学力の定着に努めること。
- 児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動や言語活動を充実するとともに、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように一層工夫すること。
- 保護者や地域等の理解と協力のもとに十分な連携をとりながら、家庭における学習習慣や生活習慣等の改善に向けた取組を行うこと。

- 調査結果の分析・検証の結果から課題の見られた点を中心に、教職員の指導力向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、福岡県教育センターの『学力調査分析ツール』を活用した学力実態の分析や各教科の『授業改善のためのストラテジー』を用いた校内研修等を適切に実施すること。
また、調査結果の分析・検証の結果については、学校全体で共有し、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科の指導改善等にも活用すること。
- 学力の実態をもとに、各学校で作成している『学力向上プラン』の見直しや改善を進め、授業改善や学力向上のための教育活動の具体的な取組に生かすこと。

3 柳川市教育委員会における改善に向けた取組の推進

- (1) 柳川市教育委員会においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、市内の教育や教育施策の改善に向けて総合的かつ計画的な取組を進めるものとする。
- (2) 柳川市教育委員会においては、具体的には次の事項について取り組む。
 - 学校における具体的な改善の計画や取組に対し、学校の状況に応じて、必要な指導、助言や支援等を行うこと。その際、特に課題が見られる学校における改善の取組を促すとともに、積極的な支援を行うこと。
 - 指導内容や指導方法等の改善を推進するため、以下の点から教育施策の改善に適切に反映させること。
 - ① 教職員研修の実施や授業研究等への支援を行うこと
 - ② 柳川市学校教育研究指定校（学力向上に関する研究）の実践を市内の小・中学校へ広げること
 - ③ 柳川市教育研究所の研究員研究報告書や研修講座等の研修資料提供を行うこと
 - ④ 学力アップ推進事業への非常勤講師の配置等への配慮を行うこと
 - 優れた取組を行っている学校等の事例や調査結果の分析・検証手法等の周知に努めること。
 - 家庭における学習習慣・生活習慣等の改善に向けた取組を推進すること。
 - 小・中学校毎に学力向上推進会議（対象：教頭・主幹教諭・教務主任）を実施し、各学校の「学力向上プラン」の修正、見直しと学力向上に向けた短期、中・長期的な取組を具体化し、取組の実施、改善を促すこと。
 - 中学3年生徒の小学校6年時の学力実態の傾向比較や中学1年4月時における学力分析テストの結果等をもとに、小学校・中学校における学力の課題を共有して改善に取り組むよう促す。

平成26年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力実態調査

『調査結果報告書(柳川市)』

平成26年12月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話 0944-77-8852(教育指導室)
